

外部からの評価

ESG投資インデックスへの組み入れ・ESG格付け ▼

社外からの認定・評価 ▼

ESG投資インデックスへの組み入れ・ESG格付け

FTSE4Good Global Index Series^{※1}

「FTSE4Good Global Index Series」は、ロンドン証券取引所グループ（LSEG）の完全子会社であり、グローバルなインデックスプロバイダー・FTSE Russellが開発した株価指標です。環境、社会、ガバナンス（ESG）を強力的に実践する企業のパフォーマンスを測定するために設計されています（2023年6月現在）。



[FTSE4Goodウェブサイトはこちら](#)

FTSE Blossom Japan Index^{※1}、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index^{※1}

丸紅は、「FTSE Blossom Japan Index」及び「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定されました（2023年6月現在）。FTSE Russellにより構築された「FTSE Blossom Japan Index」は、環境、社会、ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを測定するインデックスで、FTSE Japan All Cap Indexに対しインダストリー・ニュートラルとなるよう設計されています。また、銘柄の組み入れ基準には国連の持続可能な開発目標（SDGs）を含む既存の国際基準から導出された、FTSE4Goodの組み入れ基準を使用して作成されています。

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」は、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計されています。また低炭素経済への移行を促進するため、特に温室効果ガス排出量の多い企業については、TPI経営品質スコアにより改善の取り組みが評価される企業のみを組み入れています。

これらのインデックスは、世界最大規模の公的年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がパッシブ運用のESG投資指数として採用しています。丸紅は、GPIFが日本企業向けのESG投資に採用している6つの指数^{※4}の全てに構成銘柄として組み入れられています（2023年8月現在）。



[ウェブサイトはこちら](#)



[ウェブサイトはこちら](#)

※1 FTSE Russell（FTSE International LimitedとFrank Russell Companyの登録商標）はここに丸紅株式会社が第三者調査の結果、FTSE4Good Global Index Series、FTSE Blossom Japan Index、及びFTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。これらのグローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス（ESG）について優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを測定するために設計されたもので、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数^{※3}、MSCI日本株女性活躍指数^{※3}

丸紅は、「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」において、2023年1月に続き、2023年6月も最上位の評価であるAAAを獲得し、継続して構成銘柄に選定されました。MSCI社は米国・ニューヨークに拠点を置く金融サービス事業者であり、ESG格付けにおいて世界の主要な指数提供会社の一つです。丸紅は同社によるESGインデックス「MSCI ESG Leaders Indexes」^{※2}の構成銘柄にも選定されています。

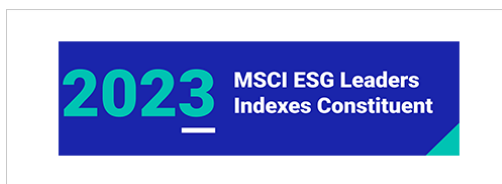
「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」は、日本株上場銘柄のうち、各業種の中から相対的に優れたESG評価の企業を選別して構築される指数です。

「MSCI日本株女性活躍指数」は、MSCI社によって開発され、同社が開発した性別多様性スコアに基づき、業種内で性別多様性に優れた日本企業を選別して構築されています。

これらのインデックスは、世界最大規模の公的年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がパッシブ運用のESG投資指数として採用しています。丸紅は、GPIFが日本企業向けのESG投資に採用している6つの指数^{※4}の全てに構成銘柄として組み入れられています（2023年8月現在）。



➤ [ウェブサイトはこちら](#)



➤ [ウェブサイトはこちら](#)



➤ [ウェブサイトはこちら](#)



➤ [ウェブサイトはこちら](#)

※2 THE USE BY MARUBENI CORPORATION OF ANY MSCI ESG RESEARCH LLC OR ITS AFFILIATES (“MSCI”) DATA, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT, RECOMMENDATION, OR PROMOTION OF MARUBENI CORPORATION BY MSCI. MSCI SERVICES AND DATA ARE THE PROPERTY OF MSCI OR ITS INFORMATION PROVIDERS AND ARE PROVIDED ‘AS-IS’ AND WITHOUT WARRANTY. MSCI NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI.

※3 THE INCLUSION OF MARUBENI CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF MARUBENI CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

※4 6つの指数：

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
- MSCI日本株女性活躍指数
- S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index

CDP

「国際環境非営利団体CDP※5」は、各国の企業に対して気候変動対策等の環境情報の開示を求め、収集した情報を分析・評価して投資家に公開しているプロジェクトで、丸紅は2007年から回答しています。2022年には、昨年に引き続き気候変動および森林分野において、それぞれA-を取得し、水セキュリティ対策においてAリストに選定されました。



※5 国際環境非営利団体CDP：

CDPIは、企業や自治体を対象とした世界的な環境情報開示システムを運営する国際環境非営利団体です。CDPIは、2000年に英国に設立され、130兆米ドルを超える資産を保有する680以上の投資家と協働し、資本市場と企業の調達活動を介して、企業に環境情報開示、温室効果ガス排出削減、水資源保護、森林保護を他に先駆けて働きかけてきました。2022年、世界の時価総額の半分に相当する18,700社以上と約1,100以上の都市、州・地域を含む、世界の約20,000の組織が、CDPを通じて環境情報を開示しました。CDPIは、TCFDに完全に準拠した世界最大の環境データベースを保有しており、CDPスコアはゼロカーボンで持続可能な強靱な経済の実現に向けて投資や調達の意思決定を促すために広く利用されています。CDPIは、科学に基づく目標イニシアティブ、We Mean Business連合、The Investor Agenda、ネットゼロ・アセットマネージャーズ・イニシアティブの創設メンバーです。

▶ 2022年のCDP Aリストならびに他の公開スコアはこちら [📄](#)

iSTOXX MUTB ジャパン プラチナキャリア 150 インデックス



丸紅は、2023年3月、三菱UFJ信託銀行株式会社とSTOXX社（ドイツ取引所傘下）が開発した「iSTOXX MUTB ジャパン プラチナキャリア 150 インデックス」に構成銘柄として採用されました。

同指数は、各企業の長期的な視点、自律的な学び、社会への貢献という3点に対する企業の活動・取り組みを評価する株価指数です。約560社の中から、積極的に社員のキャリア構築を支援する日本企業150社で構成されます。

採用にあたり、当社の従業員のキャリア形成に対する積極的な取り組みが評価されました。

社外からの認定・評価

「なでしこ銘柄」に選定

「なでしこ銘柄」は、女性活躍推進に優れた上場企業をとして選定し、中長期の企業価値向上を重視する投資家にとって魅力ある銘柄として紹介することにより、企業への投資家の関心を高め、各社の女性活躍に向けた取り組みを加速化させていくことを狙いとしています。2012年度より、経済産業省が東京証券取引所と共同で選定しています。丸紅は、「なでしこ銘柄2015」、「なでしこ銘柄2017」、「準なでしこ2019」に選定されています。

- ▶ 女性の活躍推進についてはこちら
- ▶ ワークライフマネジメントの推進についてはこちら



関連ニュースリリース


- ▶ 「なでしこ銘柄2017」に選定された件 [📄](#) [337KB]
- ▶ 「なでしこ銘柄2015」に選定された件 [📄](#) [248KB]

「えるぼし」認定を取得

「えるぼし」は、2016年4月1日に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）に基づいて行動計画を策定し、届出を行った企業の中から女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況等が優良な企業を認定するものです。丸紅は、2017年9月に厚生労働大臣より3段階中2段階目の認定を受けました。



関連ニュースリリース

▶ 女性活躍推進法に基づく優良企業として「えるぼし」企業認定を取得  [116KB]

女性活躍推進法に基づき策定した行動計画

▶ 丸紅株式会社 行動計画（第2期）  [145KB]

「プラチナくるみん」認定を取得

次世代育成支援対策推進法に基づき、一般事業主行動計画を策定した企業のうち、計画に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした企業は、申請を行うことによって「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を受けることができます。






丸紅は2019年に、くるみん認定を既に受けている企業の中でもより高い水準の取り組みを行っている企業を評価する「プラチナくるみん」に認定されています。



関連ニュースリリース

▶ 「プラチナくるみん」認定を取得

次世代育成支援対策推進法に基づき策定した行動計画

- ▶ 丸紅株式会社 一般事業主行動計画（第1期）  [90KB]
- ▶ 丸紅株式会社 一般事業主行動計画（第2期）  [75KB]
- ▶ 丸紅株式会社 一般事業主行動計画（第3期）  [100KB]
- ▶ 丸紅株式会社 一般事業主行動計画（第4期）  [80KB]
- ▶ 丸紅株式会社 一般事業主行動計画（第5期）  [70KB]

「健康経営銘柄2023」「健康経営優良法人2023（ホワイト500）」への選定

丸紅は、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施する「健康経営銘柄2023」に選定されました。健康経営銘柄は、東京証券取引所の全上場会社の中から、社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる「健康経営^{※6}」に優れた企業を選定するものです。2023年は31業種49社が選定され、卸売業では丸紅を含め3社が選定されました。丸紅は2015年以降2度目の選定となり、また、優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人（ホワイト500）」には6年連続で認定されました。

「社員」はかけがえのない財産であり、その社員の「健康」は何よりも大切であることから、社員一人ひとりが自律的・積極的に健康維持・増進に取り組むことができる環境づくりを推進しています。今後も健康経営の推進、人的資本経営の深化により一層取り組み、社員の活躍を支え、丸紅グループの成長に繋げていきます。

▶ 健康経営についてはこちら

※6 NPO 法人健康経営研究会の登録商標



関連ニュースリリース

▶ 「健康経営銘柄2023」への選定について～「健康経営優良法人2023（ホワイト500）」にも6年連続で認定～

「ベストモチベーションカンパニーアワード2023」において「第3位」を受賞

株式会社リンクアンドモチベーションが2022年に従業員エンゲージメント調査を実施した企業の中から、「エンゲージメントスコア」の高い10社を表彰する「ベストモチベーションカンパニーアワード2023」において、丸紅は、大手企業部門（2,000名以上）で第3位を受賞しました。



▶ エンゲージメントサーベイについてはこちら

日本の人事部「HRアワード2018」において「企業人事部優秀賞」を受賞

日本の人事部「HRアワード」は、人・組織に関わる領域において、企業や個人の成長を促す取り組みに着目し、HRパーソンに広く伝えることで、HRを通じた全国の企業の発展を目指す表彰制度で、日本の人事部「HRアワード」運営委員会が主催し、厚生労働省が後援しています。丸紅は、「既存の枠組みを超える『人材』×『仕掛け』×『時間』の施策」が、企業人事部優秀賞を受賞しました。

▶ 「既存の枠組みを超える」施策についてはこちら

「第11回日本HRチャレンジ大賞」において「大賞」を受賞

「日本HRチャレンジ大賞」は、日本社会の活性化促進を目的として、経営層や人事部等が人材領域で積極的にチャレンジする企業を表彰するもので、「日本HRチャレンジ大賞」実行委員会が主催し、厚生労働省、中小企業基盤整備機構（中小機構）、東洋経済新報社、ビジネスパブリッシング、HR総研（ProFuture）が後援しています。丸紅は、「抜本的な人事制度改革による丸紅人財エコシステムの実現・進化」が、2022年に大賞を受賞しました。


▶ 丸紅人財エコシステムについてはこちら

グリーンファイナンス

[グリーンファイナンス・フレームワーク](#) ▼[グリーンボンド・フレームワーク](#) ▼

グリーンファイナンス・フレームワーク

当社は国際資本市場協会（ICMA）が定めるグリーンボンド原則2021、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等のグリーンローン原則2023、環境省のグリーンボンドガイドライン（2022年版）およびグリーンローンガイドライン（2022年版）に基づき、以下のグリーンファイナンス・フレームワークを策定しました。

▶ [グリーンファイナンス・フレームワーク](#)  [798KB]


セカンドパーティ・オピニオン

当社が策定したフレームワークについて、日本格付研究所より、グリーンボンド原則、グリーンローン原則、グリーンボンドガイドラインおよびグリーンローンガイドラインとの適合性に対する外部評価（セカンドパーティ・オピニオン）を取得しました。

▶ [セカンドパーティ・オピニオン（日本格付研究所）](#)  [1.4MB]


グリーンボンド・フレームワーク

当社は国際資本市場協会（ICMA）が定めるグリーンボンド原則2021に基づき、以下のグリーンボンド・フレームワークを策定しました。



▶ [グリーンボンド・フレームワーク](#)  [393KB]

セカンドパーティ・オピニオン

当社が策定したフレームワークについて、サステイナリティクス社より、グリーンボンド原則との適合性に対する外部評価（セカンドパーティ・オピニオン）を取得しました。

▶ [セカンドパーティ・オピニオン（サステイナリティクス社）](#)  [911KB]

レポーティング

銘柄	2026年満期米ドル建て無担保普通社債（グリーンボンド）
発行総額	5億米ドル
年限	5年
払込期日	2021年9月17日
償還期日	2026年9月17日
資金使途	再生可能エネルギー、FSC ^{※1} ないしPEFC ^{※2} 認証付き植林事業、上下水道事業、マグネシウムリサイクル製錬事業
レポーティング	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 丸紅グリーンボンドレポーティング  [1.0MB] ➤ サステナリティクス社によるアニュアルレビュー  [306KB]

※1 FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）認証（FSC® C016260）。責任ある森林管理を世界に普及させることを目的として活動する非営利団体であり、国際的な森林認証制度を運営しています。

FSC®は投資収益についてのいかなる財務的主張にも責任を負わず、保証もしないものとします。

※2 PEFC（The Programme for the Endorsement of Forest Certification）認証（PEFC/31-32-80）。国際的な森林認証制度で、各国の森林認証と相互認証を行う仕組みを取り入れています。

ESG対照表

サステナビリティサイトに掲載されているコンテンツをESGの項目別に一覧表示しています。「●」からサステナビリティサイト内の該当箇所または掲載ページにリンクします。最新の情報は、サステナビリティサイトをご覧ください。

サステナビリティ全般	考え方	●
	推進体制	●
	基盤マテリアリティ	●
	環境・社会マテリアリティ	●
	マテリアリティの特定・見直しのプロセス	●

		方針	目標	体制	取り組み	データ	イニシアティブへの参加	外部との協働
E	環境マネジメント	●	●	●	●	●	—	—
	気候変動対策への貢献	●	●	●	●	●	●	●
	持続可能な森林経営、森林保全への貢献	●	—	—	●	●	●	—
	生物多様性と生息環境の保全	●	—	●	●	—	●	—
	水マネジメント	●	—	—	●	●	●	—
	サプライチェーン	●	—	—	●	—	●	—
S	人権の尊重	●	—	●	●	●	●	—
	サプライチェーン	●	—	—	●	—	●	—
	労働安全衛生	●	●	●	●	●	—	—
	健康経営	●	—	●	●	●	—	—
	顧客に対する責任	●	—	●	●	—	●	●
	人財マネジメント	●	—	—	●	●	—	—
	ダイバーシティ・マネジメント	●	—	●	●	●	—	—

			方針	体制	その他
G	コーポレート・ガバナンス	基本的な考え方	●	—	—
		ガバナンス体制	—	●	—
		取締役会及び監査役会の構成	—	●	—
		取締役及び監査役の選任理由	—	—	●
		取締役会の実効性評価	—	—	●
		役員報酬	●	—	—
		内部統制	●	—	—
	コンプライアンス	コンプライアンス体制	—	●	—
		コンプライアンス・マニュアル	 [12.7MB]	—	—
		内部通報制度	—	●	—
		贈収賄防止	 [236KB]	—	 [416KB]
	リスクマネジメント	リスクマネジメント体制	—	●	—
		リスク一覧	●	—	●
	株主総会関係	招集ご通知	—	—	●
		決議ご通知	—	—	●